

《門司の環境を考える会》 辺野古埋め立て採石ニュース



2015年5月31日《No.9》
連絡先
森下 宏人…090-9495-3902
八記久美子…080-1730-8895

奄美報告《3日目》全国連絡協議会設立会議開かれる・八記久美子

海を埋めた国有地の基地に、県民の権利は及ばない 出す方と受ける方、力を合わせて辺野古新基地建設ストップを



設立会議の様子。各地からの参加者やオブザーバーのみなさん。オブザーバー参加の沖縄県議の方は、「新しい権限を作り出してでも、建設をストップさせようと、新基地土砂条例を6月議会に提出するため、頑張っています」と、発言されました。

5月31日(日)、奄美市において、「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会の設立会議が開かれました。

各地域や沖縄・鹿児島両県議団の報告の後、意見交換を行い、会設立に向けての、趣旨や規約などを確認しました。

ただ、現在も参加団体が増え続けているため(現在22団体)、役員は少し先で決めることとし、顧問と仮の共同代表2名を選出しました。



共同代表者らの握手の写真を撮る、マスコミのみなさん。3日間の行動には、いつもマスコミのみなさんが、同行されていました。

裏面に、設立趣旨と決議文を掲載しています



総会を終えた後、代表者が握手。左から、共同代表(仮)・大津幸夫さん、顧問の向井宏先生、共同代表(仮)・阿部悦子さん。

「感動的な会議だった」と沖縄県議のみなさん 設立会議終了後に記者会見



各会派の沖縄県議のみなさん

5人の沖縄県議のみなさんは、「活動が、点から線になり、面に広がってきた。また、持ち場持ち場で何をすることが鮮明になってきたと思う。この取り組みに心から感謝したい。大変大きな意義があり、感動的な設立会議だった。」と、話されていました。

【設立趣旨】

沖縄・辺野古への基地新設は、沖縄県民多数の反対に関わらず、政府は埋め立てなど一連の工事を強行しつつある。これは平和を切実に願う沖縄県民のみならず、多くの国民の意思を踏みにじる行為である。同時に基地埋め立て用の大量の土砂は、沖縄県内に加え、西日本の広範な地域から海上輸送する計画で、ジュゴンやサンゴ礁の豊かな大浦湾を激変させるほか、西日本の採取地の明媚な自然破壊、住民生活の混乱をもたらしている。

私たち土砂搬出予定地、すなわち瀬戸内海、門司、奄美大島などの住民団体、地域代表は本日ここに、辺野古新基地計画と自然破壊行為の即時中止・撤回を求め、「一粒たりとも故郷の土を戦争に使わせない」をスローガンに、互いの交流・連携を強めるため、『辺野古土砂搬出反対』全国連絡協議会」を結成する。

決 議 文

今年、日本は戦後 70 年の節目を迎えた。だが戦後の一貫した不戦・平和国家の追求は今、安倍自民党政権下で大きく揺らぎつつある。加えて軍事基地の大半を押し付けられた、沖縄の加重負担は変わらず、島民の圧倒的世論に反して 100 年耐用型の辺野古新基地建設さえ始まっている。

21 世紀は何をさておいても、戦争のない世紀でなければならない。戦争こそ人間を狂気に駆り立て、尊厳を傷つけ、貧困を増長させ、最大の環境破壊の元凶である。私たちは平和希求の叫びを一層高らかにし、基地のない平和な島の実現を訴える沖縄の人々に寄り添い、反基地運動へ一層の連携を誓う。

そうした中、辺野古新基地の埋め立てに供する土砂が、沖縄県内外、とりわけ西日本の広範な地域から、調達する計画を防衛省は表明した。対象地の離島、農漁村は高度経済成長下で資材供給を担わされ、破壊と公害に苦しんできた地方が少なくない。昨今ようやく乱開発に歯止めがかかり、地域の主体的な振興に取り組み出した矢先、新たな膨大な土砂供出は、再びふるさとの荒廃を加速しかねない。

沖縄・辺野古の海はジュゴンやサンゴ礁が群棲する世界的にも貴重な海であり、小豆島は瀬戸内海を代表する国立公園で、奄美・沖縄は世界自然遺産登録をめざしている。こうした風光明媚、人々の原風景の各地の自然を、国は環境アセス一つなく、山河を踏みにじり、土砂供出を押し付けている。これは沖縄と日本各地の自然破壊、さらに軍事基地への加担を強制する、国土と精神の二重破壊である。

私たち土砂搬出予定地および関連団体は今日ここに相集い、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会を結成、政府に対し辺野古新基地計画・土砂搬出計画の即時撤回を強く訴える。

以上、決議する

2015 年 5 月 31 日

辺野古土砂搬出反対・全国連絡協議会